

提 言 書

韮崎市社会教育施設の調査・研究・提言

令 和 6 年 3 月

韮 崎 市 社 会 教 育 委 員 の 会

目 次

1. 調査の目的	・ ・ ・	1
2. 調査対象施設の概要と提言の概要	・ ・ ・	1
3. 第一グループ調査・提言	・ ・ ・	3
4. 第二グループ調査・提言	・ ・ ・	8
5. 調査日程経過	・ ・ ・	12
6. 委員名簿	・ ・ ・	13

韮崎市社会教育施設の調査・研究・提言

1. 調査の目的

韮崎市社会教育委員の会では令和4年度に韮崎市第三期教育大綱を踏まえて本年度より始まった韮崎市社会教育計画を策定してきました。

そして令和5年度においてはこの社会教育計画に基づく社会教育施設の調査を行いこの内容について提言することと致します。

この社会教育施設の調査・研究は平成28年～29年度において一度行っておりますが、日々変化する社会教育に対するニーズも多様化、個性化しておりこの変化に対応する施設の在り方を再構築せねばならない時期にきていると思います。

そこで前回の研究も踏まえて再度、韮崎市社会教育施設の調査を行ったものであります。

また、令和2年～3年度においては韮崎市の生涯学習推進の諮問に対する答申を行っておりますが、前回調査できなかった施設について今回の調査対象として社会教育委員による調査を実施致しました。

調査対象は次の四施設としました。

- 韮崎市大村記念図書館（第一グループ）
- 東京エレクトロン韮崎文化ホール（第一グループ）
- 韮崎市民俗資料館（第二グループ）
- ふるさと偉人資料館（第二グループ）

2. 調査対象施設の概要と提言の概要

① 韮崎市大村記念図書館

現在の図書館は平成23(2011)年に設置されて今の蔵書数は15万冊、収容能力は17万冊で令和2(2020)年には電子図書館をオープンさせています。

立地場所が韮崎駅前であり学生や高齢者などが電車、バスからの立ち寄りに便利なこともあり、令和4年度の入館者数は65,400人(一日当たり250人)となっており市内外の多くの方に利用されております。

情報デジタル化が進む中で、今後電子図書の充実に期待します。

甲府市立図書館では小中学校の児童・生徒一人に一台のタブレット端末を貸与して電子図書を利用する学習を始めたといえます。

韮崎市の図書館もこれに追随して、まずは学校の児童・生徒による利用率を高め、そして一般市民が活用する電子図書の数を拡充して欲しいと思います。

② 東京エレクトロン 葦崎文化ホール

当ホールは峡北地域の文化・芸術事業の中心的な役割を果たしています。

葦崎市においては防災政策上としての指定避難所でもあり重要性の高い施設です。

指定管理者の㈱ケイミックスも現在二期目に入っており葦崎の文化を大事にした自主事業も展開していますが、更に周辺都県の文化を導入した事業も取り入れて欲しいと思います。

また、葦崎にある文化施設と連携を深め、文化芸術振興のためのネットワークを構築して「葦崎のまち」による魅力を創出していただきたいと思います。

そうすれば市民は文化・芸術に親しみをもち共に事業発展に寄与出来ると思います。

③ 葦崎市民俗資料館

昭和 55(1980)年に開館した民俗資料館は建物や施設の老朽化が進んでいます。

古代、中世、近世、近代の文化財や資料も多く保管されていますが展示場所が限られており資料をテーマ毎に整備、管理をする事が極めて困難となっています。

葦崎市の文化財は本資料館以外にも三か所で保管されており、これらを集約、整備して機能的に展示し葦崎市の持つ財産を大切に受け継いでいかなばなりません。

今後、新しい施設の開館が近年中に計画されており、それまでに保有している文化財の整理を進め保護と継承に万全を期して欲しいと思います。

④ ふるさと偉人資料館

偉人資料館は葦崎市に係わりがあり、ふるさとの歴史の中で顕著な業績を残した方々を紹介しています。

そして、偉人の生涯を辿ることから先人が残された足跡を学ぶことも目的としています。

平成 23(2011)年に開館した当館は今まで栗原信近、小野金六、小林一三、保坂嘉内等 30 名以上の偉人を学芸員の調査で発掘して紹介されていることは素晴らしいことです。

しかしながら集客の対象者が全方位的であり入館者が少ないのが残念です。

今後は対象者を絞った期間限定の企画も必要であり視聴覚による紹介も考えて欲しいと思います。

県内外の同様な資料館では映像や音声による紹介で人気を得ている施設も多いです。

入館者が展示を楽しみながら学び、感動を生む資料館になることを期待しています。

以上の4施設について二つのグループが各々分担して施設評価シートにより調査、研究を行い具体的な評価と提言を行いましたので次項に掲載いたします。

この提言書を令和 5 年度よりスタートした葦崎市社会教育計画と共に実施して頂きたいとお願い致します次第です。

令和 6 年 3 月 13 日

葦崎市教育委員会

教育長 堀川 薫 殿

葦崎市社会教育委員の会

会長 梶形 昭平

3.第一グループ調査・提言

代表者氏名：清水雅美

社会教育施設評価(荏崎市立大村記念図書館)

I 適正な社会教育施設
設置の目的：市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資するため。
【調査結果】 【背景】 荏崎市社会教育計画における施策に基づく（令和5年度～令和8年度） ○蔵書数を増やすほか、新たに導入した電子図書館において、特色あるコンテンツを選ぶなど充実を図り、一般・子ども向け講座やイベントの実施、動画配信サービスを活用したイベントを開催するなど、入館者や貸出冊数の増加に努める ○地域に関連する資料や行政資料の収集に努め、特色ある図書館を目指すとともに、「X」や「Instagram」などのSNSを活用した積極的な情報発信に努める ○すべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所で自主的に読書活動ができるよう「荏崎市子ども読書推進計画」を推進していく 【調査・研究・評価及び提言の視点】 ○新たに導入した電子図書館において、学校教育や市民活動に対応するため、そのメリット・デメリット、課題を明らかにすると共に、特色あるコンテンツを選ぶなど、充実を図る必要がある。 【荏崎市立大村記念図書館の電子図書館の現状】 インターネットを経由してサービスを提供。検索、閲覧、印刷（PDF出力）などのサービス。 【SWOT分析（強み・弱み・機会・脅威）】 ・電子図書館の強みとしては、365日24時間対応、貸出・返却が簡単（自動返却）、音声読み上げ機能がある電子書籍もある。文字を大きくできる。汚れ、紛失がない。本を数冊分携帯できる。図書館が休館の時も電子書籍の提供が可能 ・電子図書館の弱みは、電子書籍や端末不足、電子端末の費用がかかる、電子図書館の予算が少ない、PCを利用する場合に立ち上げに時間がかかる、利用者が持つデジタル機器それぞれの利用方法や、スキルの格差ができる。システム障害が発生することがある。 ・電子図書館の機会としては、インターネットが普及している、高齢者インターネット利用が増加している、電子化された本が増加している、タブレットが普及している、学校の教材が電子化されてきている、情報の電子化が進むことにより、電子図書が一般化している、インターネット情報に頼らない、本の情報信頼性が増加している ・電子図書館の脅威としては、他の図書館も電子図書を導入している。無料の電子書籍が増加している。実在する図書空間の必要性が薄くなる。
課題と今後の発展： 提言『電子図書館の今後の発展方向』 ～まずは、学校教育との連携を～ ○急速なデジタル化推進 情報のデジタル化が進み、図書館においても急速なデジタル化を進めなければならないと考えられる。 ○電子図書館の強みを活かしたサービスを提供 コロナ禍の経過で図書館の環境も変わり、休館を余儀なくした時に電子図書館を開館したことで、電子書籍の貸し出しをするきっかけとなった。今後も電子図書館の強みを活かし、サービスを提供していくべきだと考える。 ○電子書籍の利点を最大限に活用する 電子図書館は、場所や時間にとらわれず、電子書籍の検索、貸し出し、返却、閲覧が困難な人でも、インターネットを通じて読書ができるという利点が大きいため、最大限活用する必要があると考えられる。 ○積極的な情報発信を更に強化する 電子図書館の利用者、利用率はあまり芳しくないとのことだが、それは電子図書館の知名度が低いためではないかと考えられる。電子図書館の知名度を上げるために、市報、SNSなどを活用した積極的な情報発信は、更に強化していかなければいけないと考えられる。 ○費用対効果を分析 電子書籍導入の費用が多くかかるので、アンケート調査等により利用者のニーズを把握する必要があり、費用対効果を分析することが重要であると考えられる。 ○まずは、学校教育との連携をとる 以上のような発展方向を踏まえ、今後の発展方向として、年齢の低い段階から電子図書館の活用を学ぶため、学校教育との連携を強化し、子どもたちのカリキュラムの中に電子図書館の利用を明確に位置づけていくことが必要だと考える。 次項に、学校教育の立場から学校教育との連携に関する、今後の発展方向に対して必要な取り組みや要望などを記載する。 【学校教育との連携した取り組み】 子どもたちのカリキュラムの中に「電子図書館の利用」を位置づけるためには市内の小中学校で、電子図書を借りる方法などについてのオリエンテーションを行う必要がある、小学校の場合は、低・中・高学年ごとに児童の発達段階に応じて説明を行う必要がある。特に低・中学年の場合は、保護者も交えて行うことも必要だと考えられる。また、学級内の複数の子どもたちが一斉に授業の中で活用していけるよう、電子書籍の数を増やしたり、ネット環境の整備を進めたりする必要がある。さらに、家庭学習も含めて、保護者にも電子図書館の利点について啓蒙していく必要がある。
その他： （参考） ○実施の際は、荏崎市教育委員→校長会→各小学校へと内容を確認する ○現在、市内の小中学校の子どもたちの読書時間は減少傾向にある。家に帰ってからの過ごし方では、スマホや動画視聴、SNS、オンラインゲームなどに費やす時間が増え、およそ2～4時間だという報告を聞いている。このような子どもたちの現状を踏まえ、家庭への啓蒙の重要性を感じる。（学校司書、図書部会などから）

評価項目		5段階評価	コメント
II 運営及びサービスの質の向上			
1. 利用しやすい受付案内の実施	利用者が利用しやすい受付案内を実施しているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：3、B：1、D：1	(評価A)利用しやすい案内がなされている (評価B)図書館の入り口に分かりやすい案内が必要 (評価D)図書館の入り口にわかりやすい案内として、詳細なフロアマップ、利用可能なサービス、設備、施設等が入り口に提示してあれば図書館を最初に利用する人は便利であると考えられる。
2. 利用者の意見・苦情を抽出する仕組みの構築	利用者が意見や苦情を述べやすい環境を整備しているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：1、B：2、C：1	
3. 職員のマナー	利用者が気持ちよく利用できるよう、利用者に対する職員の接客マナーは適切か。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：4、B：1	(評価A)利用者への接客マナーは良好と言える
4. 蔵書と新規購入図書	蔵書と新規購入図書についての検討は適切か。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：1、B：2、D：1	(評価D)新規購入図書を市民の声を的確に聞いているか？
5. 利用率向上の企画	利用率向上のための企画を実施しているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：1、B：3、C：1	(評価B)子どもから高齢者まで幅広い情報発信が欲しい
6 委員独自の設問	清潔感(いつ行っても心地よい空間になっているか)	A・B・C・D・E 《回答数》 A：1	
III 施設・設備の維持管理			
1. 建物・設備の保守点検	建物・設備が適切に管理され、安全性の確保及び良好な機能の保持が実現されているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：3、B：1、C：1	(評価B)安全性は良い。電子図書館の利用率を上げたい。
2. 清掃業務	利用者が快適に利用できるよう、清掃が行き届いているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：4、B：1	(評価A)快適に利用できるよう配慮されている

A:とても良い
 B:良い
 C:ふつう
 D:悪い
 E:とても悪い

代表者氏名：清水雅美

社会教育施設評価(東京エレクトロン 荏崎文化ホール)

I 適正な社会教育施設
設置の目的：市民の芸術文化の振興と福祉の増進に寄与するため。
【調査結果】 【背景】 荏崎市社会教育計画における施策（令和5年～令和8年度） ○峡北地区において芸術文化事業の中心的な役割を担っていることから、いつでも、どこでも、誰でも、広く市民が文化・芸術に触れる機会の確保に努めていく必要があり、また、防災計画においても、避難場所に指定されている重要性の高い施設であることから、長寿命化計画に基づき、計画的に更新、回収していく必要がある。 ○文化の魅力発信の拠点として、多種ジャンルにわたる公演や支援事業があるが、仕事等で当日開催場所へ足を運べない方などがいる。そこで、幅広い世代を対象としたオンライン配信の実施など、環境整備や講演内容の充実を図る 調査・研究・評価及び提言の視点 ○文化ホールの事業や運営については、貸し館事業と併せ、自主事業を充実して地域の芸術・文化振興の拠点としての役割を果たし、市民が今以上に親しみを持って活用できる施設としての取り組みが必要である。 【東京エレクトロン 荏崎文化ホールの現状】 令和4年度指定管理者顧客満足度第三者報告（令和5年3月）調査件数 135件 （経営総研株式会社） 【総括】 ○「総合的な満足度」をみると、「無回答」を除いて、貸し館事業で100%と答えており、サービス品質が高い水準で提供されていることがわかる。また、いずれも「職員の接遇・対応については、高い評価が示されており、特に貸館事業については、「無回答」を除いて99%の方が満足と答えている。 ○貸館をみると、「施設環境や備品等」に関わるいずれの設問に対しても「無回答」を除く95%以上の方が満足と答えており、特に「座席の配置、椅子や施設備品」においては100%の方が「満足」と答えている。なお、「利用目的に沿った利用状況」「予約方法やチケットの購入」のいずれも、「無回答」を除いて95%以上の方が満足という結果だった。 ○貸し館事業について 「北巨摩全体に住んでいる女性の幅広い方が、小・中規模な集まりを目的に定期利用する施設」という施設像が浮かび上がる ○自主事業について 【現状】外部のアーティストを呼び、市内や県内外からも観光客が来るイベントを展開 【果たす役割】 荏崎市の文化活動、その他のイベントなど人が集う中心の場所として、荏崎市の認知度を上げるとともに、関係人口が増えることなど、経済効果をもたらすこと。
課題と今後の発展： 提言『自主事業の機能充実』 ～コラボする芸術と文化～ 武田の里フィールドミュージアムへの参画 【課題】 各団体や個人的なイベントについては、素晴らしい活動をしている。今後、事業がより発展するためには、新しいイベントのプロデュースに向けて、他の芸術文化施設とのコラボレーションが必要。 荏崎市には、大村美術館をはじめ、市民文化ホール、大村記念図書館、民俗資料館、ふるさと偉人資料館、中央公民館など、多くの芸術・文化施設があり、美術・音楽・演劇・芸能・パフォーマンス、歴史探訪、食文化（伝統食・ワイン）などの多彩なイベントが、年間を通して多く開催されている。 しかし、それぞれの施設が独自の自主事業を行っており、各自主事業にはそれに興味のある人しか足を運ばないことも多い。これまでの荏崎市の事業は、発表者と観る側がほぼ同じ顔触れになっていないだろうか。特に、仕事をリタイアした後の女性の割合が多い傾向にある。より多くの方に各施設に足を運んでもらえる様にするためには、「興味がなくて足を運んでいなかったジャンルの芸術や文化に興味を持ち始める」という機会を創ることがこれからは必要であると考えます。 例えば、中高生と70代の奏者が大正琴の演奏をコラボレーションすることによって、上の世代から下の世代に技術が継承されることや、下の世代の新しい世界観を上世代と共有しながら、新しい大正琴の世界を創造できる可能性がある。今までは、興味のあるイベントのみ参加していた市民が多いと思うが、他のジャンルのことを知る機会や出逢いがあると思う。 現代は、インターネットで芸術や文化に触れることができるので、本物に触れる機会が少なくなってきたと感じている。そこで、「興味があるもの＋今まで見向きもなかったもの」のコラボレーションがあるとよいと思う。今の荏崎市内の芸術・文化の事業を行っている各施設同士で何かできないだろうか。例えば、大正琴の演奏のバックに、その演奏のイメージに合わせた絵画や演出をして感動を与えることなど、これまでになかった新しいイベントが考えられる。 このような中で、次に示す「武田の里フィールドミュージアム」の実現に向けて取り組むことが必要であると考えます。 （1）「武田の里フィールドミュージアム」の構想 参考資料：「新宿フィールドミュージアムの実現について」 長年に渡り、継続して事業が行われている。
その他： 【フィールドミュージアムとは何か】 博物館を従来の「箱物」に展示物が入っているというスタイルだけでなく、地域の自然や人の営みそのものを博物館とみて、研究・保全・普及という博物館のような活動を通じて、社会的にも経済的にも、活用できる手段とする構想。 これは文字の通り、「野外の博物館」を表現している。すなわち、「施設」としての博物館ではなく、その地域に固有の自然・歴史・文化などを野外で直接、体験や学習ができるシステムとなる。 フィールドミュージアムは、観光客を誘致するツールとして期待できる他、学校での総合学習、野外授業などの体験学習、環境学習の場としての活用が可能になる。 ※ミュージアムとは、博物館と美術館の両方を指す

評価項目		5段階評価	コメント
II 運営及びサービスの質の向上			
1.利用しやすい受付案内の実施	利用者が利用しやすい受付案内を実施しているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：3、B：2	(評価A)利用しやすい案内がなされている
2.利用者の意見・苦情を抽出する仕組みの構築	利用者が意見や苦情を述べやすい環境を整備しているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：2、B：2、C：1	
3.情報提供の実施	当該施設及び生涯学習に関する情報提供を実施しているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：2、B：2、C：1	(評価A)生涯学習フェスタ等しっかり情報提供がなされている (評価C)生涯学習などに関しては目立った周知がない。(行きたくなるような)
4.各種イベントの企画	利用率の向上につながるイベントを企画しているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：2、B：1、C：1	
5.利用者拡大への運用	利用者の拡大につながる運用を行なっているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 B：1、C：3	(評価B)市内の他の芸術文化施設とのコラボが必要
6.委員独自の設問	職員のマナー	A・B・C・D・E 《回答数》 A：1	(評価A)接客マナーは適切と言える
III 施設・設備の維持管理			
1. 建物・設備の保守点検	建物・設備が適切に管理され、安全性の確保及び良好な機能の保持が実現されているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：3、B：2	(評価A)安全性・機能面共に良い
2. 清掃業務	利用者が快適に利用できるよう、清掃が行き届いているか。	A・B・C・D・E 《回答数》 A：4、B：1	(評価A)常に清潔に保たれている

A:とても良い
 B:良い
 C:ふつう
 D:悪い
 E:とても悪い

武田の里フィールドミュージアムの構想



コラボする芸術と文化

観て、聴いて、体験して、感じて
 葦崎の新しい魅力を
 見つけませんか

関係施設

東京エレクトロン葦崎文化ホール、葦崎大村美術館、大村記念図書館、葦崎市民俗資料館、中央公民館など、葦崎市内の施設

事業

生涯学習フェスタ、青少年活動、成人式、ライフカレッジ、音楽祭、その他の事業や、新しい企画

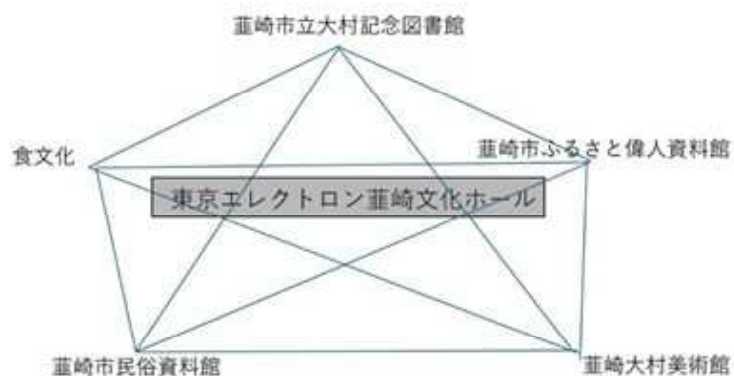
推進体制

武田の里フィールドミュージアム協議会

教育課で、関係施設を取りまとめる。

企画運営会議

実行委員会



4.第二グループ調査・提言

代表者氏名：向山建生

社会教育施設評価シート（荳崎市民俗資料館）

I 適正な社会教育施設	
	施設の目的：郷土に遺された各種の文化資料の保護及び活用を図り、本市文化の発展に寄与するため。 【評価項目の調査結果】 〔施設共通評価項目〕 1.展示の評判について (施設側の回答) 評判については、アンケート未実施のため不明である。ただ、小学生からの授業後の手紙には概ね好意的な言葉が多い。また、資料の出土場所や使用場所の地図がほしいという意見を時折もらう。 2.展示の情報発信について (施設側の回答) 市広報、市ホームページの他、SNS、駅掲示をしている。 現在、自主企画展は実施していない。 3.利用者拡大の方針について (施設側の回答) 新潟県十日町などと共同でスタンプラリーを展開している。他館との巡回などの企画に乗り、他県や他市との交流人口増を視野に入れた取り組みなどを実施中である。 4.荳崎市に望むこと (施設側の回答) 特にない。 5.荳崎市民に望むこと (施設側の回答) 現在、子ども(小学生)を除くと県外からの見学者が多い、荳崎らしい民具などや、日本遺産に関わる資料なども多いことから、気軽に足を運んでいただきたい。 6.その他、施設の運用や職員の勤務など、改善すべき点について (施設側の回答) 施設の経年劣化、資料に関する保管状況の改善(温湿度、紫外線収蔵スペース等)。また、学芸員職員の職務上の研究時間の確保などの職員体制の改善が求められる。 〔施設単独評価項目〕 1.企画・運営に関する人的充足について (施設側の回答) とにかく少人数体制である。平均3.5人で廻しているが、本来なら発掘の専門家や学芸員、協力員(ボランティア)で運営されるのが望ましいが、雇用も含めてなかなか難しい状況にある。 2.展示と保管のスペースについて (施設側の回答) 施設の経年劣化、資料に関する保管状況の改善(温湿度、紫外線収蔵スペース等)が必要で、現在、新たな資料館構想を立案中である。 3.施設の立地と構造(段差、階段、サイン等)について (施設側の回答) 現状の段階で改修するのではなく、すべて新たな資料館構想の中でクリアしていく。 4.情報発信について (施設側の回答) 子ども(小学生)は授業の中で当施設について知る。ただ、一般には複数媒体で情報発信しているが、興味のない人には届かない。概して50~60歳代の方が民俗資料に興味を持つが、忙しい30~40歳代にも伝達し、施設に来て欲しい。これまで体験教室を行うと、子どもより親の方が夢中になる面白さがある。 【調査結果の評価】 長野県旧富士見町の民俗資料館を参考に、昭和55年に現在の場所に開館した。 現況は、1階に事務所、展示室、倉庫、2階に主たる展示室があり、別棟で旧富屋小野家から移築された蔵屋敷(2階建)、藤井町の黒沢川から移設した水車小屋、NHK朝ドラ「花子とアン」で使われたロケセットがあり、その他、収蔵庫、広い庭園などがある。 2階展示場(写真3)は主たる展示物が置かれ、きちんと分類され、分かりやすく整理されているので、たっぷり1時間はかけて楽しめる。しかし、1階倉庫(写真4)は貴重な資料で溢れ、人員と保存スペースの不足でなかなか整理できない実情が現れる。また、駐車場、庭園、植え込み、蔵屋敷は手入れが行き届き、美しく快適な環境を保持している。 いずれにせよ、外見でも分かる建物の老朽化が際立ち、また、新耐震基準以前の建物であるため、貴重な市の資産を保護するために、早めに資料館新構想を実現させる必要がある。 課題と今後の発展 展示物や倉庫内を覗くと、そこは当地の宝の山であった。 ふるさと偉人資料館と大きく異なる点は、ふるさと偉人資料館は主に制作したレプリカとパネルを展示し、当地出身の偉人に関する知識を得ることを目的とし、「価値ある本物」は書籍ぐらいでほぼ本物は扱わない。一方、民俗資料館は、歴史を語る古文書や、手間と時間とお金をかけて発掘・修復した土器や道具、また、その時代に使用した生活品や農具など、どれをとってもレプリカは1つもなく、すべてに人の息吹が感じ取れる。まさに、今の私たちの存在を感じ取れる貴重な異空間の施設であるが、そこに大きな課題が3つある。 1 建物の老朽化 大地震が起きれば建物が倒壊し、貴重な展示物や収蔵品が破壊される恐れがある。また、見学者の安全を確保できない。 2 収蔵品の整理・整頓・保管 今後もさらに収蔵品が増えることを想定し、きちんと保管して次代に継承できる新たな施設と設備が必要である。 3 人員不足 収蔵を主とする施設であるが、市内外に公開して感動してもらう目的もあり、そこには施設の運営はもとより、企画力や実行力や情報発信力が求められ、魅力的な施設づくりへの体制づくりが必要である。 その他 今、市内でも広いエントランスをもつ小中学校が多く、また、少子化による空き教室がある。そこで、テーマ毎に収蔵品の一部を学校内に展示することで、児童生徒や保護者に見てもらえることと、保管スペースの課題に一時的(新構想実現まで)に対処できる。

評価項目		5段階評価	コメント
II 運営およびサービスの向上			
1. 利用しやすい受付案内の実施	利用者が利用しやすい受付案内を実施しているか。	Ⓐ・B・C・D・E	明るく、丁寧な対応をしている。
2. 利用者の意見・苦情を抽出する仕組みの構築	利用者が意見や苦情を述べやすい環境を整備しているか	Ⓐ・B・C・D・E	窓口対応ができています。
3. 情報提供の実施	当該施設及び生涯学習に関する情報提供を実施しているか。	Ⓐ・B・C・D・E	多媒体で実施している。
4. 展示内容の企画	古代から近代への展示内容の検討をしているか。	A・B・C・Ⓓ・E	人員やスペース不足で自主企画ができない状況にある。
5. 利用拡大への運用	利用者の拡大につながる運用を行っているか。	A・B・Ⓒ・D・E	展示物に魅力はあるが、なかなか集客に繋がらない悩みがある。
6.		A・B・C・D・E	
7.		A・B・C・D・E	
III 施設・設備の維持管理			
1. 建物・設備の保守点検	建物・設備が適切に管理され、安全性の確保及び良好な機能の保持が実現されているか。	A・B・C・Ⓓ・E	建物自体が老朽化しており、管理はしているが、大地震や大雪、強風時の安全性に関しては不安である。
2. 清掃業務	利用者が快適に利用できるよう、清掃が行き届いているか。	Ⓐ・B・C・D・E	屋内外とも清潔が保たれ、衛生面もしっかり対応している。

A：とても良い、B：良い、C：ふつう、D：悪い、E：とても悪い



写真3：2階展示室



写真4：1階倉庫

【調査を実施しての提言】

建物の老朽化に加え、人的不足、施設のスペース不足という大きな課題があるが、すでに新設構想がスタートしているので、本調査結果を参考にいただき、魅力ある生活・文化・歴史の殿堂にしていきたい。

【社会調査委員第2グループの調査風景】

令和5年10月18日（水） 午後1時から



偉人館事務室視察



民俗資料館視察



民俗資料館 蔵屋敷ヒアリング

代表者氏名：向山建生

社会教育施設評価シート（荏崎市ふるさと偉人資料館）

I 適正な社会教育施設	
	施設の目的：郷土の偉人の偉業を顕彰し、後世に伝えていくとともに、市民の交流等を通して広く教育及び文化の発展に寄与するため。
	【評価項目の調査結果】 〔施設共通評価項目〕 1. 展示の評判について (施設側の回答) 窓口では評判は良いというコメントをいただくことがありますが、アンケートをとっていないので、全体的な評価は不明です。 2. 展示の情報発信について (施設側の回答) 市広報、市ホームページ、企画のチラシの他、ミュージアム甲斐ネットワークのホームページ、山日新聞で発信している。 3. 利用者拡大の方針について (施設側の回答) 現状でよいと思っているが、今後はSNSでの情報発信も考えている。 4. 荏崎市に望むこと (施設側の回答) 特にない。 5. 荏崎市民に望むこと (施設側の回答) 素直な気持ちで見ていただきたい。ニコリにお越しの際は立ち寄って、見学だけではなく、企画に関わる情報をお寄せいただきたい。 〔施設単独評価項目〕 1. 偉人に関する古文書の展示はしないのか (施設側の回答) 実施したいが、関連する資料が多く、また、古文書を解読する協力員（ボランティア）の確保が難しい状況にあるが、今すぐに検討したい。 2. 窓口の体制は十分か (施設側の回答) 何しろ学芸員1人と、受付1人を交代で対応している。ボランティアの人を増やすなり、企画に関わる支援体制を整えるなど、改善が必要である。 3. 中学生の利用を増やせないか (施設側の回答) 学校行事での中学生の利用は、授業が詰まっているので困難である。ただ、小学生は出前型での学習支援や、予約して施設に来れば対応でき、是非、小学校では学習の場にしてほしい。 4. 満足度を、窓口で抜き打ち調査できないか (施設側の回答) 今すぐに検討したい。 5. 市の職員が積極的に偉人を学ぶべきと思うか (施設側の回答) もちろんそうであるが、市は政策として観光・偉人・文化財をリンクさせ、観光が軸となって展開することが求められ、今すぐに検討したい。 【調査結果の評価】 現況は、継続してふるさと交流センター「ニコリ」内1階の展示会場にて自主企画展を開催し、常設展も併設している。事務所（写真1）は1階北側にあり、約24平米ほどで細長く狭いが、そこで学芸員（1名）と偉人研究会のメンバー（8名）が企画の検討、課題の対応、資料の作成と一部保存、休憩などに使用している。倉庫（写真2）は地下1階にあり、ニコリの防災関連の備蓄スペースなどの共用スペースの一部を使用しているが、空調設備が資料等の保管に適していないため、貴重な資料は別に管理している。 前回企画、今回企画の内容から、「学習や研修・知識の習得」に関しては、子ども向けも、大人向けも「概ね良く」、また、「楽しむ機会」に関しては、どちらかというと大人向けには「とても良く」、子ども向けでも「良い」と評価できる。 コロナ感染期（令和2～4年）を除外した直近の10年間で、企画に対する「利用者の反応」は「良い」で、学芸員1名採用後の支援員の充実で、「自主企画の変化」は「やや向上」したが、「利用者数の変化」については「変化なし」とみる。それは、偉人資料館を目的とした利用者は減少傾向にあり、ニコリのイベントに併せた利用の増加で「変化なし」とした。 課題と今後の発展 自主企画については、しっかり考察し、時間をかけて情報収集し、少ない人員と予算で頑張っていると評価できる。 利用者数の増加について、複数媒体で情報発信しているが、内容に興味のある人にはその情報は到達するが、なかなか集客に繋がらない。これは他の博物館や美術館でも同様で、果たして今後のSNSでの発信で利用者数が増すかどうか分からないが、新たな媒体で若者や広域に発信することは必要である。また、市内外の地区・公民館・生涯学習・団体等の学習の機会として案内し、企画の出前塾の促進などで、せっかくの企画を生かす手段と考える。 企画と運営の人員については、いつも同じ1人の学芸員と研究会メンバーでは、企画内容に行き詰まりやマンネリが起きる。そこで、企画アドバイザーの設置や、研究会の複数化で企画力を強化し、運営では、協力員（ボランティア）の増員、展示室に説明者の常駐、音声ガイドの整備などが求められる。市民には、企業をリタイアしたデザイナーやプロデューサーなど、専門性の高い人がおり、そういう人財の力を借りる方策も考えられる。 その他 市内の小中学生が「ふるさとの偉人」を知り、故郷の偉人をリスペクトするよう、現企画の「子ども向けリーフレット」を発展させ、『偉人を調べよう』（仮称）をテーマに広報で告知し、偉人資料館で調べて提出すると、満点回答者には記念品と、顔写真と名前、簡単なインタビュー記事を広報に出す」といった企画にすれば、広報と偉人資料館の相乗効果が得られる。このような変化を、活性化に繋げていかないと、なかなか改善効果は得られない。

評価項目		5段階評価	コメント
Ⅱ 運営およびサービスの向上			
1. 利用しやすい受付案内の実施	利用者が利用しやすい受付案内を実施しているか。	㉠・B・C・D・E	明るく、丁寧な対応をしている。
2. 利用者の意見・苦情を抽出する仕組みの構築	利用者が意見や苦情を述べやすい環境を整備しているか	㉠・B・C・D・E	窓口対応ができています。
3. 情報提供の実施	当該施設及び生涯学習に関する情報提供を実施しているか。	㉠・B・C・D・E	多媒体で実施している。
4. ふるさと偉人企画	市内のふるさと偉人について、調査・研究を行っているか。	㉠・B・C・D・E	毎年、新たな自主企画に取り組んでいる。
5. 利用拡大への運用	利用者の拡大につながる運用を行っているか。	A・㉡・C・D・E	自主企画は良いが、なかなか集客に繋がらない悩みがある。
6.		A・B・C・D・E	
7.		A・B・C・D・E	
Ⅲ 施設・設備の維持管理			
1. 建物・設備の保守点検	建物・設備が適切に管理され、安全性の確保及び良好な機能の保持が実現されているか。	A・㉡・C・D・E	1階の展示室と事務室は良好であるが、地下倉庫は以前のスーパーマーケットの設備環境で、収蔵品の保管にはやや不適切。
2. 清掃業務	利用者が快適に利用できるよう、清掃が行き届いているか。	㉠・B・C・D・E	清潔が保たれ、衛生面もしっかり対応している。

A：とても良い、B：良い、C：ふつう、D：悪い、E：とても悪い



写真1：事務所



写真2：地下倉庫

【調査を実施しての提言】

客観的に、企画内容・展示内容に魅力不足が覗える。また、一般的に展示企画は3ヵ月を1クールとし、長くても2クールである。約1年という開催期間は長すぎる感がある。

魅力不足の理由は、予算不足、人的不足、「偉人」というジャンルでは徐々に対象者が狭くなる等々が考えられるが、施設の立地はよく、適度のスペースを確保しているので、今後は抜本的に企画を見直し、創意工夫が求められる。

具体的には、開催期間を最大2クール以下とし、展示人物の関係地区への重点学習会の開催、小学生の学習の機会づくり、地区出前塾の促進、多様なボランティアの関与、ブランド化PRの推進、音声ガイドの整備、図書館との共同企画など、積極的な創意工夫を期待する。

5. 調査日程経過

▼ 全体会

R5.4.25（第1回定例会）

- ・社会教育委員について及び今年度における社会教育委員の活動について

R5.6.7（第2回定例会）

- ・社会教育施設の調査・研究・評価について提言までの進め方について
- ・グループ分けとグループリーダーの決定

第一グループ

対象施設：韮崎市立大村記念図書館、東京エレクトロン韮崎文化ホール

第二グループ

対象施設：韮崎市民俗資料館、韮崎市ふるさと偉人資料館

R5.9.20（第3回定例会）

- ・施設の評価シートの提示、説明
- ・グループ検討（評価項目の施設ごとの追加項目の検討、施設調査日の日程、調査の進め方等）

R6.1.19（第4回定例会）

- ・今年度の主な活動・経過についての確認
- ・グループ検討（提言に向けてのまとめ）

▼ ワーキンググループ

【第一グループ】

R5.9.20 韮崎市立大村記念図書館長からの資料等による調査

10.24 東京エレクトロン韮崎文化ホール調査

12.20 グループワーク

R6.1.16 グループワーク

【第二グループ】

R5.10.18 韮崎市ふるさと偉人資料館調査

10.18 韮崎市民俗資料館調査

10.19～グループワーク

R6.1.21～グループワーク

6. 委員名簿

(任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日)

(※の委員は、令和4年5月1日～令和6年3月31日)

会 長 榊形 昭平

副会長 清水 雅美

委 員

田中 隆光 (学校教育関係・校長会)

清水 雅美 (社会教育関係・女性連絡協議会) ※

中山 幸子 (社会教育関係・文化協会)

有沢千花子 (家庭教育関係・主任児童委員)

向山 建生 (学識経験者・葦崎)

向山 信二 (学識経験者・穂坂)

上野 光正 (学識経験者・藤井)

平賀 嘉仁 (学識経験者・中田)

嶋津 一 (学識経験者・穴山)

内藤 京子 (学識経験者・円野)

降旗 龍雄 (学識経験者・清哲)

清水 昭二 (学識経験者・神山)

榊形 昭平 (学識経験者・旭)

土橋 春子 (学識経験者・大草)

横内 正史 (学識経験者・龍岡)